



GIGA スクール向け ユーザー管理 School Shuttle サービスのご紹介



PROGDENCE
Total Solution Provider

School Shuttle とは、



GIGA スクール環境で必要となる、
Microsoft 社やGoogle 社のクラウドサービスに対して(＊)

GIGA スクールの利用者である、生徒、児童、教職員あるいは、父兄の情報を
Microsoft Excel を利用して登録・変更・削除などを可能とする

(株)プログデンスが提供する日本初のサービスです。

本資料では、Microsoft 社 Microsoft Entra ID 対応版をご説明します。

＊Apple 社の Apple School Manager には、Microsoft Entra ID を
経由して連携が可能です。

School Shuttle for Microsoft 365 とは



School Shuttle for Microsoft 365

Who	ICT 教育現場の教育委員会様、および学校の教員／職員様が、
When	Microsoft 365 (GIGA Promo) を利用して、
Where	入学、進級、卒業などのアカウントライフサイクルでユーザー管理を行う場合に、
What	生徒が利用するユーザー情報やパスワード情報を、
Why	安全・安心・確実に分散管理し、安定した運用をするために、
How	運用用途に合わせた Microsoft Excel [※] で操作できる、

株式会社プログデンスが、**安価**で提供する**クラウドサービス**です。

※お客様の PC にインストールしてご利用いただくタイプのツールとしてご提供します。

教育委員会様が利用する Excel テンプレートや、各学校の教員／職員様が利用する Excel テンプレートなど、運用用途に合わせてご利用いただけるようになっております。

School Shuttle for Microsoft 365 の概要



School Shuttle for Microsoft 365

クライアントアプリ(Excel テンプレート) と Microsoft Azure で構成されています。

School Shuttle
クライアントアプリ



Excel テンプレート



Microsoft Azure



- クライアントアプリとして、運用管理者様の PC にインストールするタイプの Excel テンプレートをご提供いたします。※お客様にご用意いただくのは、クライアント PC のみです。
- ユーザーを新規作成する場合は行を追加し、更新の場合はセルの値を修正し、削除の場合は行ごと削除するような Excel の操作で、お客様テナント(Microsoft Entra ID)のユーザー管理が可能です。
- テナント全体を管理できるテンプレート(教育委員会様の利用を想定したもの)と、一部組織だけが管理できるテンプレート(各学校の教員／職員様が利用することを想定したもの)をご提供しております。

School Shuttle for Microsoft 365 の仕組み



役割とサービス構成



- お客様にご用意いただくのは、GIGA スクールのテナントと Windows PC だけです。

GIGA スクールの運用で必要なこと、とは？



運用開始後の課題

- ICT 端末は生徒ひとりひとりに配布したらそれで終わりではなく、年度ごとに入学、進級（クラス替え）、卒業があり、大量のユーザー管理が必要です。
- 授業中にトラブルが発生してログインできなくなったら、生徒のパスワードをリセットしないといけなくなるかもしれません。
- 生徒の転校や教職員の異動に合わせて、ICT 授業をするための環境を都度メンテナンスする必要があります。



標準ツールでもできるけど・・・

標準ツールは機能が豊富すぎて覚えることも多い上に、仕組みが不定期で変わるので、教育現場が混乱する可能性があります

これで解決！

株式会社プログデンスが提供する「School Shuttle」を使うことで、運用開始後に出てくるこういった課題を一気に解決することができます。



School Shuttle を使うことで



GIGA スクールのユーザー管理を Excel で操作することができます。
(標準ツールのレクチャーは不要で、仕組みの改変に追従する必要もありません。)

The screenshot shows the Microsoft Excel interface with the School Shuttle application loaded. The title bar indicates 'School Shuttle for Microsoft 365 / Version 2.0.0.0 / PROGDENCE CO.,LTD.'. The ribbon includes tabs for 'ファイル', 'ホーム', '挿入', '描画', 'ページレイアウト', '数式', 'データ', '校閲', '表示', '自動化', and 'ヘルプ'. The main area displays a spreadsheet titled 'マスター' (Master) with columns for user management. Annotations highlight key features:

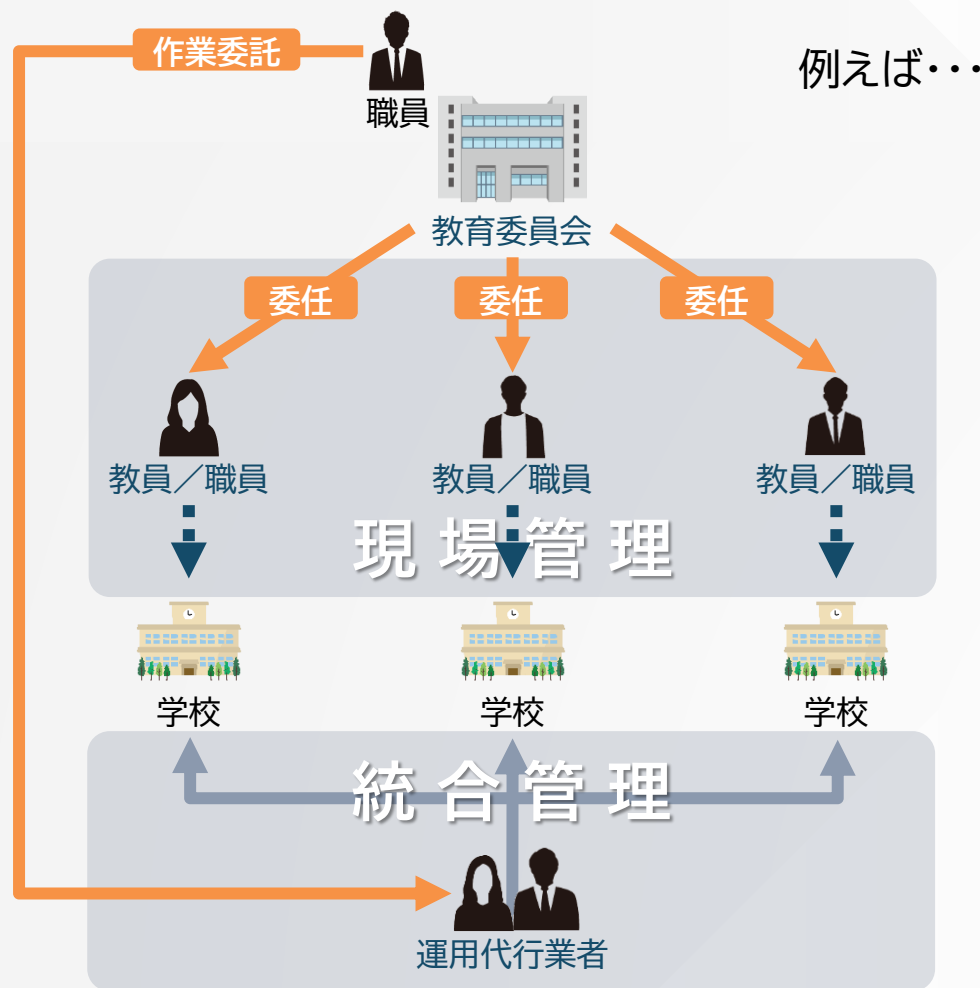
- ボタonClickで操作することができます** (Can be operated by button click): Points to the 'ユーザー一覧を取得' (Get user list) button.
- 管理項目の名前を変更したり管理項目を増やすことが可能です** (It is possible to change the name of the management item or increase the number of management items): Points to the 'ヘッダの色変更' (Change header color) button.
- このエリアに、管理対象となる生徒・教員ユーザーが並びます** (In this area, students and teacher users to be managed will be listed): Points to the main data table area.
- 行追加、行削除、セル修正、フィルター機能による並べ替えなど通常の Excel 操作が可能です** (Normal Excel operations such as adding rows, deleting rows, cell correction, and sorting by filter function are possible): Points to the data table area.
- 作業の目的に合ったシートを選択するシンプルな操作方法です** (A simple operation method to select a sheet that matches the purpose of the work): Points to the 'マスター' (Master) sheet tab at the bottom.

School Shuttle を使うことで



GIGA スクールのユーザー管理を分散することができます。

(※学校組織単体でもご利用いただくことが可能です。)



管理イベント	役割分担方法		
	例1	例2	例3
年度更新	教育委員会職員	運用代行業者	運用代行業者
			学校教員
		学校教員	
入学処理			
進級処理			
卒業処理			
転校・異動			
パスワードリセット	学校教員		

School Shuttle サービスの仕組み



まとめ

ユーザー・インター
フェースは
Microsoft
Excel

Microsoft Excel VBA

クライアントアプリ(C#)

暗号化された設定ファイル

- 比較的使い慣れている Excel 操作のみで、仕組みが複雑な Microsoft Entra ID が管理できる。
- 機能刷新の早いクラウドサービスの理解が不要。
- ただでさえ忙しい学校の先生にとって、ICT 授業の準備に大きな時間を割かなくて済む。

教育環境に即した
ユーザー管理機能

ユーザー登録・更新・削除

パスワードリセット

異動・転校

- 入学、進級、クラス替え、卒業といった教育機関独自のライフサイクルに沿った管理機能を完備。
- 生徒児童がパスワードを忘れたときにも、迅速にリセットできれば、授業の中断を最小限にできる。
- 同一の教育委員会配下の異動・転校にも対応。

システム環境
(サーバーレス)

クライアントにインストール

.NET Framework 4.7.2 以上

インターネット接続環境

- サーバーレス・アーキテクチャで実現しているため、サーバーインスタンスが不要。(固定費が掛からない)
- 事前のシステム設計や構築などの SI 作業が不要。
- データのやり取りは Excel に入力したユーザー情報のみのため、太い通信回線である必要がない。

サービス提供プランと価格

ユーザー数レンジでサブスクリプション提供

転送機能なし：初期費用 5.5 万円（契約手数料、環境設定費用、税込）

転送機能あり：初期費用 33 万円（契約手数料、環境設定費用、転送設計費用、税込）



契約プラン（ユーザーアカウントレンジ）		年間	1アカウント当たり／年
P1	1,000アカウントまで	50,000円（税込55,000円）	50円（税込55円）
P2	2,000アカウントまで	90,000円（税込99,000円）	45円（税込49.5円）
P3	5,000アカウントまで	120,000円（税込132,000円）	24円（税込26.4円）
P4	10,000アカウントまで	180,000円（税込198,000円）	18円（税込19.8円）
P5	30,000アカウントまで	360,000円（税込396,000円）	12円（税込13.2円）
P6	50,000アカウントまで	480,000円（税込528,000円）	9.6円（税込10.6円）
P7	70,000アカウントまで	630,000円（税込693,000円）	9円（税込9.9円）
P8	100,000アカウントまで	840,000円（税込924,000円）	8.4円（税込9.2円）
P9	アカウント数無制限	1,200,000円（税込1,320,000円）	-

事例1) 関東圏 某県教育委員会 様

利用ユーザー数	:160,000名(P9プラン)
学校数	:250校
管理方法	:学校単位に管理者を配置して分散管理
契約期間	:年間契約

事例2) 東海地方 某市教育委員会 様

利用ユーザー数	:10,000名(P4プラン)
学校数	:29校
管理方法	:運用代行業者が全校を一括管理、パスワードリセットは学校管理
契約期間	:5年一括契約

事例3) 九州地方 某市教育委員会 様

利用ユーザー数	:74,000名(P8プラン)
学校数	:199校
管理方法	:運用代行業者が全校を一括管理、転校・異動処理は学校管理
契約期間	:5年一括契約

よくある質問



分散管理を行いたいのですが、管理する学校数や管理者の人数によって、School Shuttle の利用料金は変わりますか？

いいえ。テナント内の利用ユーザー数の合計によって契約プランが決まります。学校数や管理者数がいくつであっても、利用料金に変動はありません。



複数の Azure テナントを利用している場合、利用ユーザー数はそれぞれのテナントごとに集計することになりますか？

はい。School Shuttle はテナント単位でご契約いただく形になります。例えば、本番環境と検証環境とでテナントが分かれていて、両方のテナントでご利用したい場合は2つ契約して頂くことになります。



ユーザー数が多い場合にダウンロード時間が気になります。学校単位でユーザー一覧を取得することはできますか？

はい。教育委員会用テンプレートでは、一覧取得の際にテナント全体の取得と、学校単位の取得を選択することができます。用途に応じて使い分けてください。



整理すべき事項について



ご検討頂く際の観点

1. ユーザー管理業務について、なにをだれが対応するのか？

例えば、年度更新の処理は教育委員会側(または外部委託業者)で実施し、転校・異動やパスワードリセットの操作は学校側で行う、など運用体制を決めて頂く。

→ School Shuttle クライアント(Excel テンプレート)の配布方法が変わります。

2. どのような情報を管理したいか？

School Shuttle サービス標準の管理項目で事足りるのか、教育委員会独自、または学校独自の管理項目が存在するのか。

→ 管理項目をカスタマイズする必要があるかどうか、が決まります。

<サービス標準の管理項目>

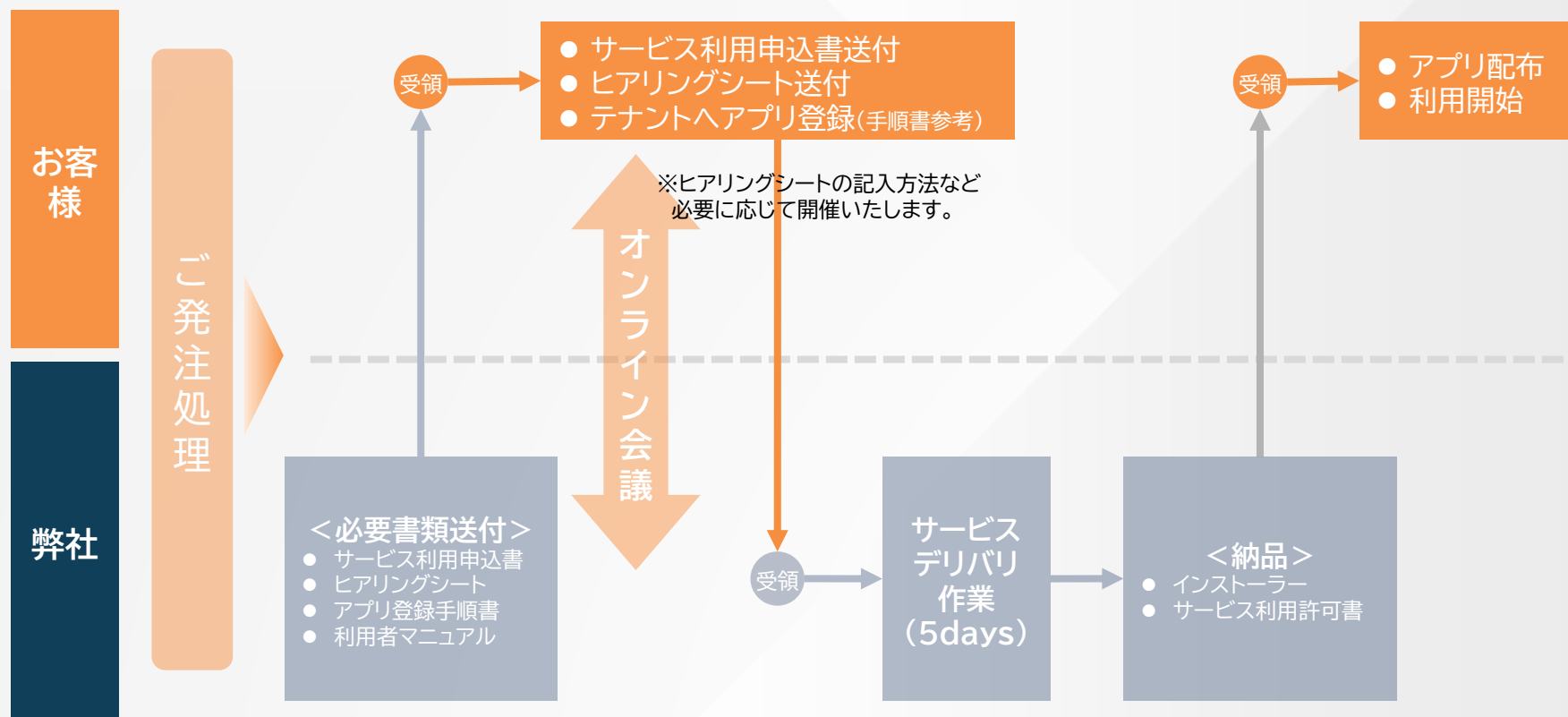
- ・ ユーザー名(※必須項目)
- ・ 姓
- ・ 名
- ・ 表示名(※必須項目)
- ・ 役職
- ・ 学年
- ・ 組
- ・ 部活動
- ・ 担当科目
- ・ 入学年度

※管理項目の追加・削除、管理項目名の変更などが可能です。

利用開始までの流れ



ご発注からご利用開始のステップ



ヒアリングシートをご提出後、5営業日程度でお使い頂けます。

GIGA スクール環境での
ユーザー管理に、ぜひご活用ください。

GIGA スクール構想対応 アカウント管理ツール

School Shuttle for Microsoft 365

PROGDENCE
Total Solution Provider

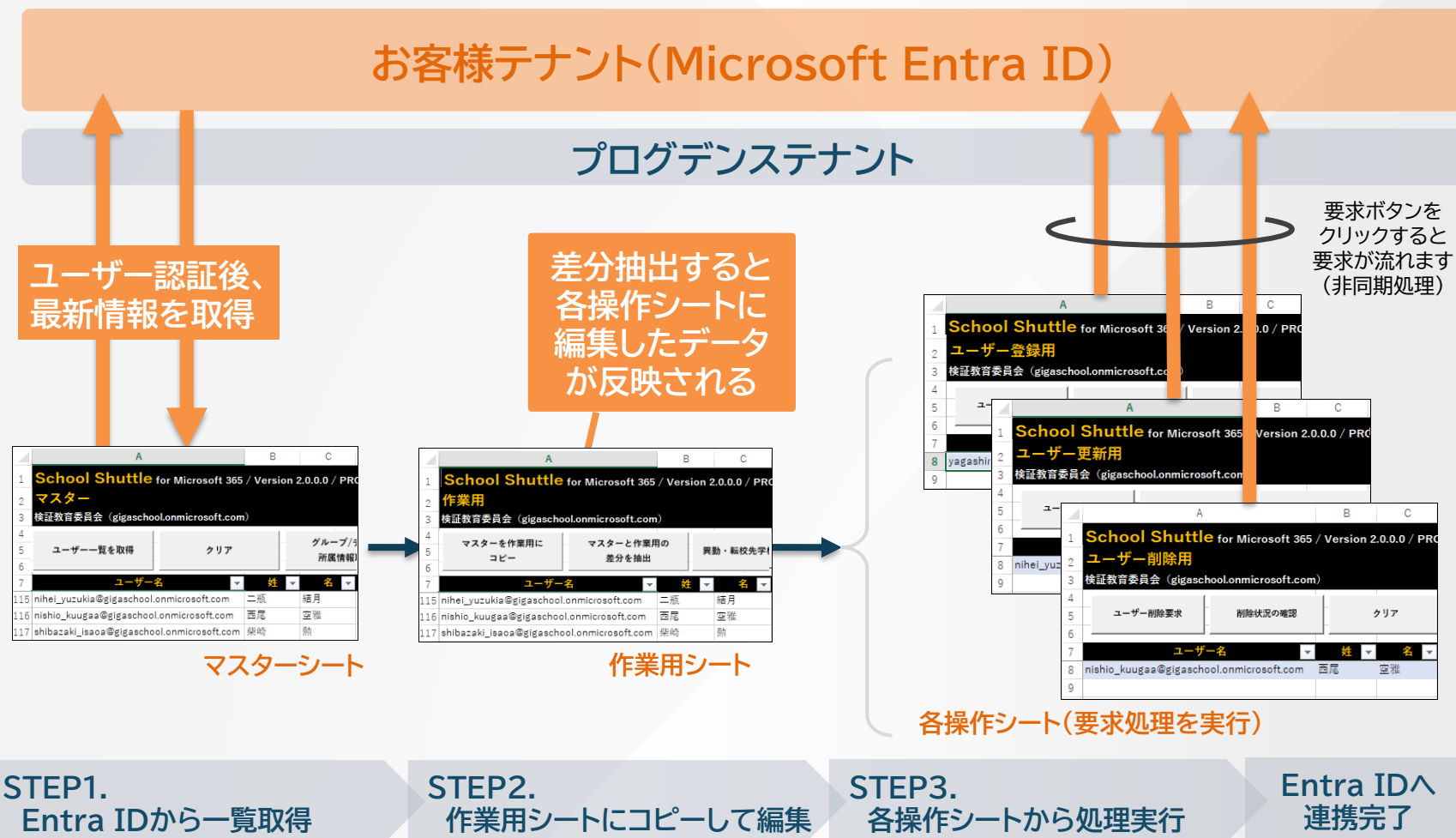
製品紹介サイト:

<https://www.progdence.co.jp/service/schoolshuttle/index.html>



Appendix

School Shuttle の操作順序イメージ



Appendix.2



他社製品との比較

項目	IDM 製品	IDM サービス	School Shuttle
ID 管理用の OS インスタンス	× (必要)	○ (不要)	○ (不要)
インテグレーション (設計・構築)	× (必要)	▲ (一部必要)	○ (不要)
初期導入コスト	× (高)	▲ (中)	○ (低)
ランニングコスト	▲ (中)	× (高)	○ (低)
運用管理者が使用するアプリケーション	× (ブラウザ or 専用の 管理コンソール)	▲ (ブラウザ)	○ (Excel)
システムメンテナンス	× (必要)	○ (不要)	○ (不要)
IT 管理者の配置	× (必要)	○ (不要)	○ (不要)